



特定ケア看護師を目指した二つの理由

三重県立志摩病院 田畑亜希

はじめに

今月担当させていただく三重県立志摩病院NDC 6期生 田畑亜希です。私たち6期生はコロナ渦であったため、さまざまな制限があり研修が思うように進められない状況にありましたが、自施設やNDC研修センターから尽力いただき令和3年度に研修を終了し、昨年度、自施設での臨床研修を終えました。私は三重県立志摩病院2人目の特定ケア看護師となりました。

志摩市の現状と志摩病院について

志摩市は全域が伊勢志摩国立公園に含まれ、他の国立公園と異なり大部分が私有地です。当院は伊勢志摩国立公園の南に位置する志摩市内唯一の総合病院です。志摩市の海岸はリアス式海岸で、中央に英虞湾、北東は鳥羽市とともに囲む的矢湾があり、英虞湾内には賢島と間崎島、的矢湾内には渡鹿野島と3つの有人島があります。国立公園やリアス式海岸と聞くと恵まれた環境に感じられます。確かに自然環境には恵まれています。人口減少は進み高齢者人口の割合は41%で超高齢化社会となっています。それを反映し、当院の患者層は80歳代が最も多く次いで70歳代、90歳代です。60歳以上が占める割合は全体の約85%、80歳以上は50%と高齢者が多く、39歳以下は4%と少ないです。医療依存度の高い人口は高齢化に比例し増えており、当院では高齢で通院できない離島に住まう人のため英虞湾内にある間崎島に回診を行っ

ています。地域唯一の総合病院であることに加え、災害拠点病院でもあり当院の背負う役割は多岐にわたっています。高齢化が進むことで医療や看護のニーズは急速に拡大しているにもかかわらず、医療を担う働き盛りの世代は減少し当院で働く医師や看護師にかかる負担は大きくなっている現状があります。

特定ケア看護師を目指した二つの理由

私が特定ケア看護師を目指した理由は二つあり、一つ目は大きくなり続ける医師や看護師の負担を軽減できる人材になりたいと思ったからです。当院では、医師不足により外来や手術中、外科領域の病棟患者対応が困難となる現状がありました。看護師が医療的介入を必要と判断する場面では、看護師は医師が手術を終えるまで待つか手術中の医師へ指示を仰ぎに行く必要があります。医師、看護師ともに多重課題に直面し大きな負担を強いられていました。特定ケア看護師は、医師の役割代行ができるため医師と看護師が揃うまで待つことなく、必要な時に必要なケアをタイムリーに提供することができます。この役割をこなすことで両者の負担軽減になると考え私は特定ケア看護師となりました。

もう一つの理由は、不安のある看護師の味方になりたいと思ったからです。私は30歳を過ぎて看護師になったため若い人と比べると覚えも悪く要領もよくありません。さらに心配性で自分が原因で患者さんに不利益なことが起きないか心配のあまり確認が多くラウンドに時間がか



志摩市の風景

かりました。それでもミスをする自分は仕事ができないと感じ、思い返すと考えすぎだと思っ場面もありますが、こんな質問をしたら怒られるのではないかとビクビク過ごすこともありました。そんな中で後輩ができ、自分が頼られ「怒られないようこっそり教えてほしい」「恥を忍んで教えてほしい」と質問されることが多くなり、主任の立場になってからはさらに質問されることが増えました。この頃から、自分は仕事ができない、先輩の目が気になって質問できないという思いのあるかつての自分のような後輩の質問に答えられる人になりたい、加えて検査や投薬の意図、医師が看護師に期待することも説明することで、不安の解消だけでなく不安の大きい看護師に自信を持ってもらいたいと思うようになりました。この思いを叶えることができるのは、特定ケア看護師であると考え目指すことにしました。

臨床研修

地域医療振興協会内の施設で研修を終えた後、自施設で1年間、臨床研修を行いました。臨床研修では院内各科を研修医と同じようにローテーションし、病棟患者の管理、救急、外来、離島回診を学び手術にも入らせていただきました。医師が簡単そうに行う手技も実際に行ってみると難しく、なぜできないのか、何が違うの

か分からずPICC挿入や動脈血採血、縫合の練習をひたすら行いました。

私たち看護師は、病名診断後から看護に入るため病名から症状を考えるのは得意ですが、逆に症状から病名を考えることが不得意です。特定ケア看護師は医師とともに症状から疾患を導き、致命的疾患の有無、可能性の高い疾患、検査、治療などを考えます。しかし、それが考えられなかったり、できない手技が続いたりすると無力感や悔しさから研修中に涙を流すことがありました。新しいことに挑戦することは楽しいことばかりではないですが、できることが増え、分からないことが理解できたときの喜びは何事にも代えがたいものです。何より自身が介入し治療できた患者さんが無事に退院する姿を見ると何とも言えない嬉しい気持ちになります。

終わりに

手術介助から離島回診まで志摩病院では、多くの学ぶ機会を与えてくれました。私が学べるよう医師だけでなく臨床工学技師や検査技師、放射線技師、皮膚・排泄ケア認定看護師やがん化学療法認定看護師まで力を貸してくれました。これからは、私の成長を助けてくれた院内の皆さまへ恩返しと、不安を抱える看護師の味方となり頑張っていきたいと思います。